



ヤギを利用した道路予定地の維持管理

～ 緩やかではあるが確実な除草管理を達成！～

連携機関 | 東部建設事務所, 西部工業技術センター生産技術アカデミー
研究期間 | 平成26年度[技術的課題解決支援事業]

技術支援のきっかけ

- ◆東部建設事務所は、道路建設で買収した用地の管理に多大な費用と労力を要していました。
- ◆道路建設着工までの用地の有効な活用を模索する中で、維持管理コストの縮減を主眼とした「ヤギによる除草」が提案され、畜産技術センターに社会実験としての実施・検証の依頼がありました。
- ◆繁殖和牛の放牧に関する共同研究(H22～24)で獲得した保有技術(飼養管理, 放牧地の植生把握, 転牧技術(畜技C), ラジコンヘリによる草量の解析技術(西工技C生産アカ))を応用して検証しました。

技術支援の内容

- ◆電気牧柵で囲む道路建設予定地(水田跡地)3,000m²にヤギ6頭を放牧し、60日間モニタリングしました。
- ◆複数技術を応用し、ヤギの草の嗜好性と、ヤギ1頭の1日当たりの草の乾物摂取量(2.3kg/日・頭)を推定し、健康に管理できることを示しました。
- ◆都市近郊におけるヤギの活用は、大家畜(牛)に比べ、管理労働が少なく、緩やかではあるが確実な土地管理手法として有効であることを明らかにしました。
- ◆ヤギによる放牧管理は、草刈り機による管理に比べ、143kgのCO₂の削減ができ、投下コストを20%削減(3年間)できることを示しました。



写真1 入牧前の放牧地

写真2 退牧時の放牧地

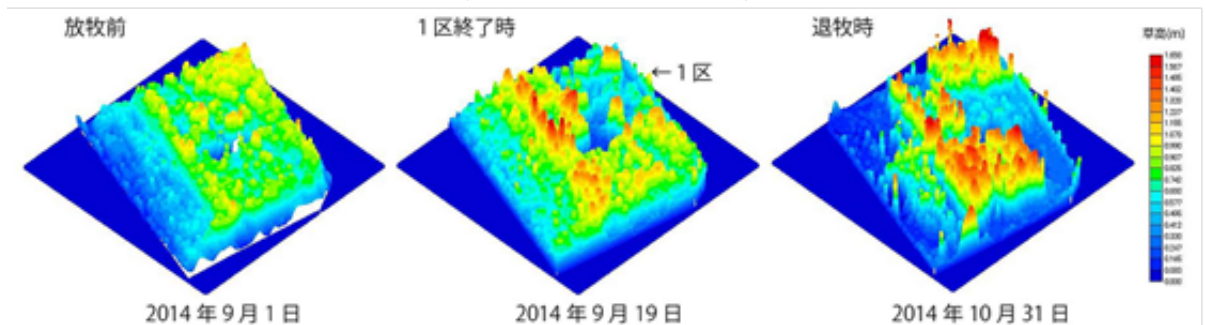


図1 画像解析による草高の変化

技術支援の活用場面

- ◆放牧地の摂取量をモニタリングする技術は、放牧地の草量を推定し、放牧計画を樹立するツールとして活用できます。
- ◆ヤギは、大家畜では対応が困難な法面、傾斜地などでの放牧対応が簡単、確実にできます。

問い合わせ先 | 畜産技術センター 技術支援部 | TEL 0824-74-0332